

第 39 回病診連携委員会要録

日 時	平成 25 年 1 月 28 日 (月) 午後 7 時 30 分
場 所	浪速区医師会 会議室
出席者	浪速区医師会 : 7名 南 医 師 会 : 1名 愛染橋病院 : 3名 大野記念病院 : 3名 多根総合病院 : 1名 富 永 病 院 : 1名 浪速生野病院 : 2名 山本第三病院 : 1名 大和中央病院 : 2名 内 藤 病 院 : 2名 社会福祉協議会 : 1名 介護事業所 : 1名 ブルーカード事務局 : 1名 浪速区医師会事務局 : 1名

今回の委員会には、内藤病院、社会福祉協議会、介護事業所より参加があった。

議 題

1. 第 38 回病診連携委員会報告について
前回委員会での議事内容の報告と確認を行った。
- 2 ブルーカード事例検討等連携病院からの報告について（四天王寺病院）
次回へ報告が延期となった。
- 3 病診連携委員会のアンケート結果について

(1) 連携病院への質問

在宅医療、在宅ケアを受けている患者の入院に際して必要な介護情報は？

患者の ADL 情報は、入院の受け入れ準備をする際に必要であり、整形外科疾患の場合はリハビリ内容や入院期間などに影響するので重要な情報であると答えた施設が多かった。認知症を有する場合は、その病状に幅があり、対応が可能かどうかを判断するために可能な限り具体的な情報を希望するとの意見があった。キーパーソンや家族構成を含めた生活環境の情報を希望する意見もあった。必要な時に在宅ケア情報を確認するためには担当のケアマネの名前や所属する事業所名が必要と考えている施設が多かった。

(2) 診療所への質問

在宅医療を行っている患者について把握しておくべき介護情報は？

少しでも多くの日常生活での情報が分かればありがたいものの、その日常生活から計画されたケアプランと具体的なスケジュールが最低必要であるとの意見が大半であった。これらの情報を在宅医療の内容と日程の参考にするとのことであった。

(3) ケアマネへの質問

在宅ケアを行っている利用者について把握しておくべき医療情報は？

介護保険を使う利用者には担当者会議があるので、そこで必要となる医療情報（疾患名、処方薬と服用方法、通院状況）は最低限知っておきたいとのことであった。それ以外に、医療側からのケアについての意見や指示、緊急時の連携方法、他科受診についての情報があればありがたいとのことであった。医師と相談できる時間帯や手段が分かればコミュニケーションがとりやすいので連携のためにも是非検討してほしいと希望された。

- 4 大阪府転退院調整・在宅医療円滑化ネットワーク事業について

まずはじめに、大阪府転退院調整・在宅医療円滑化ネットワーク事業に応募したブルーカード在宅プロジェクトの位置づけが説明された。現在ブルーカードの

進化形として、ブルーカードの診療情報に薬剤情報や検査データを付加し、医療情報の充実をめざした i-project という企画が進行中である。それと並列する企画としてブルーカードの診療情報に介護情報を付加し、医療と介護の全体の把握をめざしたブルーカード在宅プロジェクトを遂行している。

最終目標は介護情報カードを作成してクラウド化し、ブルーカードと同様に必要な時に閲覧できるようにすることである。今回の大阪府転退院調整・在宅医療円滑化ネットワーク事業に応募した動機は、ブルーカード在宅プロジェクトの主旨と一致し、介護情報の担い手である介護部門との連携強化の機会になり、企画を遂行する資金確保ができることであると説明された。

次にブルーカード在宅プロジェクトの連携の流れを決定するにあたり、委員から集まった原案に対する意見を協議した。各施設が行っている現行の医療と介護の連携が、原案よりスムーズに展開している場合は、どうすればよいかとの質問が多数あった。原案はあくまでも入院患者の在宅への移行が決まった時点で、地域連携室が十分な情報を確保していない段階でも始動できることを想定していると説明された。早めにかかりつけ医が決定すれば、退院前カンファレンスを行う時間の余裕もできるとの意見があった。初めから提供する情報があり、介護との連携ができている場合は、原案の流れをショートカットしてもよいことが確認された。かかりつけ医申請書があれば、かかりつけ医と同じ班の在宅医療ネットワーク登録医にも情報共有ができる利点があるので、今後検討してもよいのではないかと意見があった。病院から医師会へかかりつけ医申請書を提出した場合、かかりつけ医が決定するまでにどのくらいの時間を要するのかとの質問があった。

在宅医療ネットワークには、メーリングリストを通じて医師会からすぐに依頼情報が配信されるので一両日中にかかりつけ医が決定することであった。

5 その他

(1) 内藤病院の参加について

内藤病院のブルーカード参加が承認された。内藤病院は、一般病棟 32 床(うち急性期対応 5 床)、療養型病床 70 床あり、病病連携も含めて協力していきたいとの意向が述べられた。

久保田議長より藤井寺医師会で行ったブルーカードのプレゼンテーションの報告があった。藤井寺医師会は、ブルーカードの着手に積極的であり、浪速区から離れた地域での飛び火利用に発展しそうであるとのことであった。

現時点でのブルーカードの登録件数は、浪速区 415 件、他地区 92 件の合計 507 件、現在までの使用状況は、浪速区 300 件、他地区 13 件、稼働件数は 1 月 31 件、2 月 60 件であると事務局より報告があった。特に問題報告はなかった。

次回会議予定 平成 25 年 2 月 25 日 (月) 午後 7 時 30 分～